

ヨーロッパにおけるオープンソースの成熟状況

欧州ではデジタル主権に対する理解が

深まりつつあり、技術的および組織的な課題解決のために世界的な協力が、より重視されるようになった。



OSS のセキュリティに対する信頼は高く、

2023 年には 73%、2024 年には 76% が OSS はクローズドソフトウェアよりも安全であると考えている。



回答者の 74% は、学習と個人的な成長がオープンソースにコントリビューションする主な動機であると述べている。



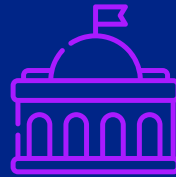
過小評価されているグループのギャップを埋め、よりインクルーシブで多様なオープンソースエコシステムを構築する上で、メンターシッププログラムは不可欠。

オープンソースから最も恩恵を受ける上位 3つの部門は、IT (37%)、政府 (36%)、高等教育 (30%)。



公共部門と教育部門の組織のうち、オープンソース戦略を持っていると報告しているのはわずか 30% と 17% の組織。

OSPO は、公共部門における組織間のオープンソースコラボレーションを促進するための重要なメカニズム。



回答者の 82% は、「公的資金、公的コード」の原則に従い、公的資金で開発されたソフトウェアはオープンソースとして公開すべきであるということに同意。

オープンソースはますます重要なデジタルインフラとして認識されるようになり、専門家は人材とエコシステムへの長期投資を求めている。



調査回答者の 43% は、AI / ML はオープンソースであることにより、最大の恩恵が受けられると考えており、

欧州におけるオープンで透明性の高い AI 開発の重要性が高まっていることが浮き彫りになっている。



EU AI Act のオープンソース例外規

は、AI モデル、安全性、オープンデータ アクセスに関するオープンコラボレーションを強化する機会を提供。



欧州のスタートアップ企業の成功により、オープンソース AI イノベーションにおける欧州の人材と将来性が広く知られるようになった。

